
unique unique

NAMU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

unique unique

【Nコード】

N0496D

【作者名】

NAMU

【あらすじ】

由野^{ヨシノ}。女。高校生。丹羽^{ニラ}。男。高校生。その二人の、会話。

40%にやられた(前書き)

会話劇ですので姿などの描写は一切ありません。

40%にやられた

由野「雨だ」

丹羽「うん」

ヨ「このままでは帰れん」

二「傘持ってきてないの？・・・何で僕の手のひらでミット打ち始めんの？」

ヨ「降水確率40%にやられた」

二「ああ。持ってこようかこないかで迷って、『まあ、大丈夫だろ』的な心境になって持ってこなかったんだ？・・・うん。痛い。普通に痛い。ちょっと強すぎ。もうちょっと弱めにして」

ヨ「傘くれ」

二「イヤに決まってるだろ。・・・アッパーやめて。手首に当たってるから。手のひらじゃないから」

ヨ「ケチめ」

二「何？ケンカ売ってる感じ？……さっきから親指の付け根に当たってるよ……。ひらに当てて。ひらに」

ヨ「この、ケチめ」

二「やっぱり、ケンカ売ってるよね？たとえ40%でも持つてくるべきだよ。降るかどうかわかんないんだしさ。……だから、強いってば……」

ヨ「この、ケチめツツツ！！！」

二「何で三回も言うの！？僕、何にも悪くないのに！？……ねえ、もう痛いからやめて……」

ヨ「よし、強制的に奪うことにする」

二「あれ？何それ？いいの？自慢じゃないけど、僕、『女性に手を上げてはいけません』的な教育受けてないからね？」

ヨ「おもしろい」

二「あれ？マジで僕の「コ」(腕)の力見せちゃうよ？」

ヨ「かかってこい！！」

二「……やっぱりやめとくよ。ほら、怪我させたら悪いしね？」

ヨ「フッ」

二「……ッッッダアァー！！いいの！？いいの！？マジでやっちゃうよ！？後悔しないでよッ！？ミット打ちの分、倍返しだよ！？泣かしてやるよオオオォー！！！！」

40%にやられた（後書き）

初小説です。以前書いていたのをを少々手直しして更新しました。お見苦しい点が多々見受けられるかもしれませんが、読んでいって下されれば幸いです。

感想や批評など頂ければ飛び上がって喜びます。よろしく願います。

やり方ってもんがあるでしょう(前書き)

引き続き、会話文です。悪しからず。

やり方ってもんがあるでしょう

ヨ「のどが渴いた」

二「またいきなりだね」

ヨ「カラカラなのだよ」

二「・・・・・・・・炭酸ならあるけど」

ヨ「おお、ナイス」

二「まあ、あげるとは言っていないよね」

ヨ「くれ」

二「ええー」

ヨ「何だ？やんのか？」

二「え、待つて？今の僕のリアクションのどこにケンカを売る要素があつたの？」

ヨ「よし、来い。ケチ野郎」

二「何？やる？やるの？手加減しないよ？グーでいつちやうよ？・・・・・・OK。わかった。あげる、あげるよ。この間みたいになるのは勘弁だしね」

ヨ「ええー」

二「何で！？あげるんだよ！？いいかい？炭酸を、キミに、あげるんだよ？もうケチ野郎なんて呼ばせないよ！？」

ヨ「そのようだな」

二「もう、僕がのだ渴いたよ・・・」

ヨ「何？炭酸は飲ませんぞ？」

二「もういいから・・・早く飲んじゃえよ・・・」

ヨ「うん。では・・・・・・・・ゴク、ゴク、ゴク、ゴク・・・・・・・・」

二「うん。清々しい程の飲みっぷりだね」

ヨ「ぷう・・・・・・・・ケプツ」

二「ころ」

ヨ「ぐは」

二「まったく」

ヨ「何をする」

二「女の子が派手にゲップしちゃいけません。出すな、とは言わないけどさ。やり方ってもんがあるでしょうよ。口に手をやるとか、そっぽ向くとかさ」

ヨ「ほう。で、私の頭を叩いたのか？まったくんでもねえ野郎だな。私がバカになったらどうしてくれる、ケチ野郎」

二「うん。仮にもモノをくれた人に言うセリフじゃないよね、それは。いや、叩いてないよ？あれはチョップという名のツッコミだよ。あと、キミはモノをもらったんだから一応お礼を言うべきだよ。僕に」

ヨ「頭を叩いてくれてどうもありがとう」

二「うん。違うよね？『飲み物をくれてどうもありがとう』でしょ？完璧に皮肉ってるよね？うん、もういいや。何でもない」

ヨ「あ、そうそう」

二「？何？」

ヨ「ケプツ」

二「コルア！！！！」

クシャクシャにしてやろっか

ヨ「コンビニ行こうぜ」

ニ「え？なんで？」

ヨ「腹が減ったのだよ。ニワトリ君」

ニ「え？ごめん聞こえなかった。何？ニワトリ？ニワトリがどうしたの？」

ヨ「腹が減ったと言っているのだ。ホントにニワトリか？お前の頭は」

ニ「聞こえなかったくらいでそこまで言われる筋合いはないと思うんだけど……ってかニワトリはホントにひどい。全国の丹羽さんに謝りなさい」

ヨ「ごめえん」

ニ「軽い！軽いよ！？あと、『ごめえん』って間延びさせないで！妙にイラっとくるから！」

ヨ「注文の多いやつだ……。注文の多い料理店か？お前は」

二「ええ！？多くないよ！しかもなんでヨシノさんが怒ってんの！？」

ヨ「お前の顔をクシャクシャにしてやろうか？」

二「怖いよ！嫌だよ！！やめてよ！！………OK、わかった。コンビニ行こう。コンビニ。なにされるかわかったもんじゃないし」

ヨ「クシャクシャもいいなあ」

二「ダメだよ！やめてよその満面の笑み！悪意ありありだよ！？行くな！早く行こうよ！」

ヨ「しょうがないやつだ」

二「いいから！その『私がいないとダメなんだから』みたいな無駄なロールプレイいいから！そもそもヨシノさんが行きたいって言ってたんじゃない！」

ヨ「ほう。ならば競走でもしようか？」

二「は？」

ヨ「コンビニまで競走しよう。さあしよう。」

二「いや、別にそこまで急いで……………」

ヨ「そうだ、負けた方が勝った方にオゴる。というのはどうだ？」

二「だからね？そこまで」

ヨ「そういつことなら私は遠慮はしないぜ？よし、やる気出てきた」

二「ええ？」

ヨ「よい……………ドンッッッ……………」

二「ええー！？ちよつと待ってよ！地味にお金ピンチなんだよ！？
ってもう見えないし……………ああ、もう。ちくしょオオオオオッッッ

ッ！！！追いついてやる！！絶対に追いついてやるよオオオ！！い
や、抜く！抜き去って度肝をぬいてやるウウウ！！」

クシヤクシヤにしてやろつか(後書き)

全国の丹羽さん、申し訳ありません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0496d/>

unique unique

2010年10月8日14時44分発行